

社長インタビュー

求心力の強い魅力ある企業であり続けるために 「経済効率性」と「環境・社会貢献活動」の 両立を目指します。

ユニー株式会社 代表取締役社長 前村哲路

環境大臣からエコ・ファースト企業の認定を受けたのが
2008年4月21日。それからの1年の活動成果を振り返ってみました。
世界的な景気低迷のなか、
小売業界においてリーダーシップを取るユニーの先進的な取り組みと、
国内はもとより世界に向けた社会貢献活動、
2010年10月に地元・名古屋で開催される
COP10への意気込みなどについて、
前村哲路代表取締役社長と百瀬則子環境社会貢献部長の
お話を紹介します。

環境先進企業として一歩ずつ

●百瀬 環境大臣に対し「エコ・ファーストの約束」をして1年が
経ちましたね。

●前村 「食品リサイクルの推進」「循環型社会の形成」「地球温
暖化防止に向けた取組み」この3項目について具体的な数値を
掲げてお客様と一緒に取り組んできましたが、決して生易しいも
のではなく、会社を挙げて環境先進企業宣言をしたことの重責を
感じました。しかし、将来に向けた環境問題への取り組みの有効
性や世界的な動向を、国の機関から専門的な視点で指導してもら
え、情報収集しながら活動できることはありがたいことですね。

●百瀬 食品リサイクルについては、2008年からグループ企業
の(株)サークルKサンクスも廃棄処分していた食品残さを再生
利用し、堆肥や飼料にして生産した野菜や豚肉を店頭で販売する
というリサイクルループを、今年は新たに石川県と山梨県で実現
させる計画です。2012年までに全店舗での展開を目標として
いますが、「実績のあるユニーと一緒に」と各地で声をかけてい
ただくことが多くなりましたね。

●前村 食品リサイクルについては、再生利用事業者・農業者と
地域循環のしっかりとした仕組みができていないと、なかなか実
現しません。また、廃棄物削減やレジ袋使用削減なども、地道に
できることから進めてきました。その結果、廃棄物の削減、レジ袋
有料化による1億枚の使用削減などに繋がり、「経済効果とともに
ゴミを減らすことができた」と社会に対してアピールできたよ
い例ではないでしょうか。

●百瀬 レジ袋有料化に踏み切った第1号店では、当初売上げが
1割以上落ちて苦労しました。商品やサービスを見直し、お客様
に一生懸命説明するなどの努力を重ねて、3カ月後に元の売上げ
に戻すことができました。

●前村 エコ・ファースト企業の努力は他社の刺激になっています。
それぞれの業界で切磋琢磨しながら環境負荷低減の努力をし、向
上させていく主導的立場を、私たちエコ・ファースト企業は担って
います。

●百瀬 先日行われたエコ・ファースト企業の環境大臣への報告
会では、製品製造メーカー企業は、工場のエネルギーや効率化に
よって、CO₂の削減目標が明確だったことが印象的でした。